



平成19年度(平成20年3月期)
決算説明会

平成20年5月13日
塩野義製薬株式会社
代表取締役社長 手代木 功



 塩野義製薬株式会社

将来見通しに関する注意事項



- 本資料において提供される情報は、いわゆる「見通し情報」を含みます。その情報は、現時点において入手可能な情報から予測した見込み、リスクを伴う想定、実質的に異なる結果を招き得る不確実性に基づくものです。
- それらリスクや不確実性には、一般的な業界ならびに市場の状況、金利や為替レートの変動といった一般的な国内および国際的な経済状況が含まれます。
リスクや不確実性は、特に既存および開発中の製品に関連した見通し情報に存在します。それらには、臨床試験の完了ならびに中止、規制機関からの承認取得、製品の安全性ならびに効果に関するクレームや懸念の発生、技術の進歩、重大な訴訟における不利な判決、国内外各国の保健関連制度の改革や法規制などが含まれますが、これらに限定されるものではありません。また、既存製品に関しては、製造およびマーケティングのリスクがあり、需要を満たす能力を欠く状況、原材料の入手困難、他社との競合などが含まれますが、これらに限定されるものではありません。
- 新しい情報、将来の出来事もしくはその他の事項より、見通し情報に更新もしくは改正が望ましい場合であっても、それを行う意図を有するものではなく、義務を負うものではありません。
- 本資料には、医薬品（開発中の製品を含む）に関する情報が含まれておりますが、その内容は宣伝広告、医学的アドバイスを目的としているものではありません。



平成19年度 決算の概要



平成19年度 決算：経営成績(連結・単体)



(単位：億円)

	19年度 実績	18年度 実績	対前年 UP率%	増 減
<連結>				
売上高	2,142	1,997	7.3	145
営業利益	403	288	40.0	115
経常利益	398	281	41.9	117
当期純利益	250	185	34.8	65
<単体>				
売上高	2,010	1,856	8.2	154
営業利益	363	248	46.2	115
経常利益	372	259	43.3	113
当期純利益	224	173	29.8	51
年間配当金	22円	16円		

平成19年度 決算: 財政状態およびキャッシュフローの状況(連結)



	(単位: 億円)		
	20年3月期 実績	19年3月期 実績	増減
<財政状態>			
総 資 産	4,137	4,295	△158
純 資 産	3,422	3,457	△ 35
自己資本比率	82.7%	80.4%	2.3%
1株当たり純資産	1,020円	1,015円	5円
	19年度 実績	18年度 実績	
<キャッシュ・フローの状況>			
営業活動によるC/F	156	141	15
投資活動によるC/F	△ 53	△ 84	31
財務活動によるC/F	△171	△ 71	△100
計	△ 69	△ 16	△ 53
現金等期末残高	676	745	△ 69

平成19年度 決算:セグメント別売上高(連結)



(単位:億円)

	19年度 実績	18年度 実績	対前年 UP率%	増減
医療用医薬品	1,551	1,519	2.1	32
フロモックス	286	306	△ 6.5	△ 20
フルマリン	122	133	△ 8.6	△ 11
イムネース	117	117	△ 0.3	0
塩酸バンコマイシン	106	129	△ 17.6	△ 23
クレストール	104	25	312.6	79
リンデロン等外用	100	101	△ 1.2	△ 1
クラリチン	90	72	25.5	18
オキシコンチン	66	52	28.2	14
フィニバックス	25	20	26.5	5
アベロックス	19	24	△ 21.1	△ 5
輸出・海外事業	63	53	19.0	10
製造受託	58	40	47.2	18
一般用医薬品	56	61	△ 7.4	△ 5
診断薬	33	33	1.8	0
工業所有権等使用料収入	320	213	50.7	107
クレストール	298	194	54.1	104
不動産賃貸・その他	58	78	△ 25.6	△ 20
合計	2,142	1,997	7.3	145

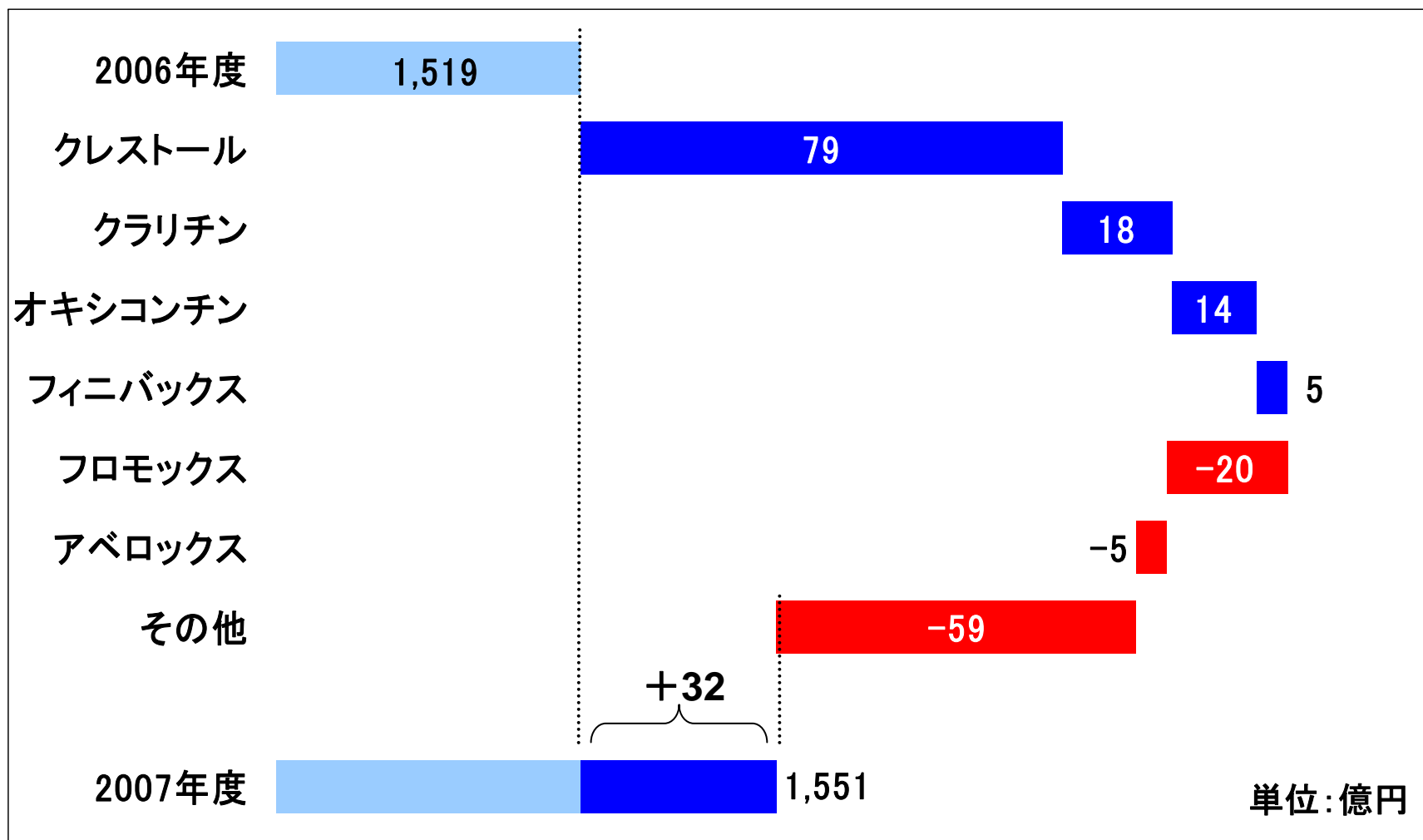
国内医療用医薬品の拡大



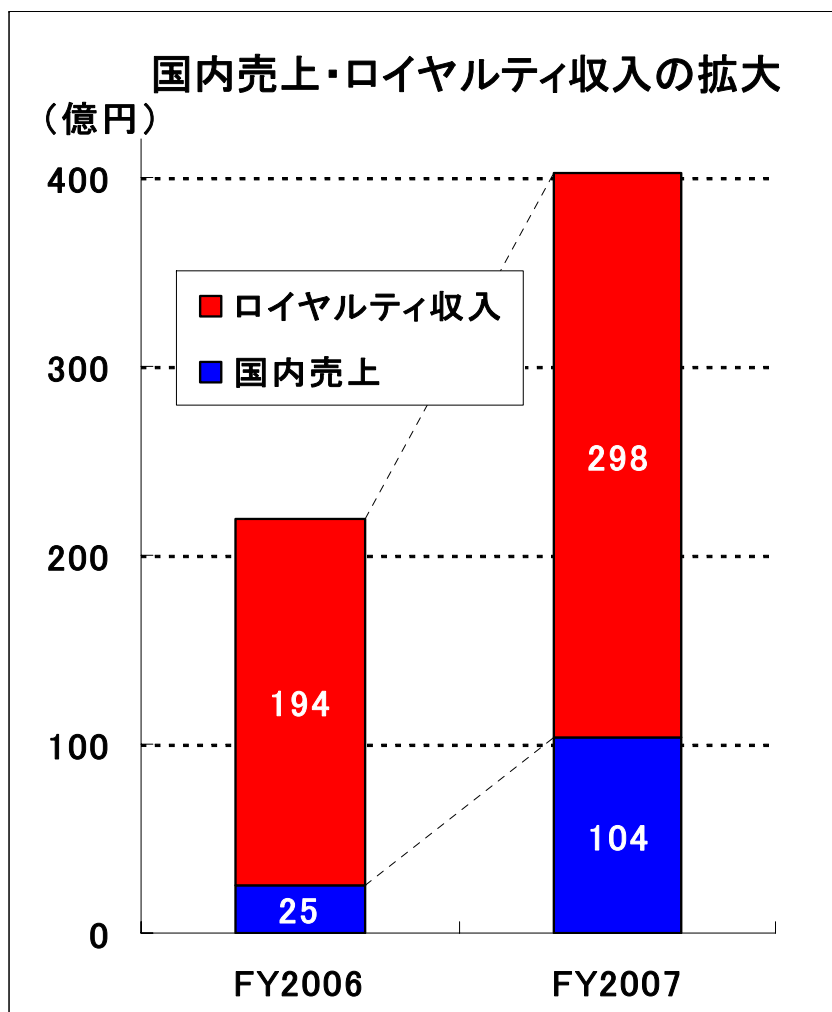
◆ 増収基調への転換

国内医療用医薬品	
2007年度	対前年比(%)
1Q (Apr.-Jun.)	-0.1%
2Q (Jul.-Sep.)	+2.4%
3Q (Oct.-Dec.)	+2.6%
4Q (Jan.-Mar.)	+3.6%
2007年度	+2.1%

国内医療用医薬品：コレステロールの拡大が牽引



クレストール®の拡大



◆ ロイヤルティ収入

- ・ AstraZeneca社によるWorldwideでの販売拡大

2006年: \$2,028mil.



2007年: \$2,796mil.

◆ 国内販売

- ・ 販売シェアの順調な拡大

	2006 4Q	2007 1Q	2Q	3Q	4Q
クレストール 国内合計	4.0%	5.3%	7.0%	8.5%	10.5%

(薬価ベース)

クレストール®: 国内市場での拡大要因



- ◆ クレストール®を中心とした新製品へのリソースの集中
⇒ 評価も連動
- ◆ MR教育の充実 ⇒ 外部リソースの活用
- ◆ 臨床医向け講演会・フォーラムの充実

2008年度以降の課題

- ◆ クレストール®・イルベタン®による循環・代謝領域での存在感の拡大
- ◆ フィニバックス®・アベロックス®等、戦略品目へクレストールの成功を拡大
- ◆ 営業企画部(新設)を通じたMR活動の向上
 - ◆ 特定機能病院への取り組みのさらなる強化
 - ◆ 戦略的なMR活動をサポートするMR教育の充実

平成19年度 決算:営業利益(連結)



(単位:億円)

	19年度 実績	18年度 実績	対前年 UP率%	増減
売上高	2,142	1,997	7.3	145
(ロイヤルティ)	(320)	(213)	(50.7)	(107)
	32.0 (37.6)	33.8 (37.8)		
売上原価	685	675	1.6	10
売上総利益	1,456	1,322	10.2	134
	49.1	51.7		
販売費・一般管理費	1,052	1,033	1.9	19
販売・管理費	649	658	△ 1.4	△ 9
研究開発費	402	375	7.6	27
	18.9	14.5		
営業利益	403	288	40.0	115



平成20年度 業績予測



平成20年度 業績予測(連結・単体)



(単位: 億円)

	20年度 予 測	19年度 実 績	対前年 UP率%	増 減
<連結>				
売 上 高	2,310	2,142	7.8	168
営 業 利 益	480	403	18.8	77
経 常 利 益	480	398	20.4	82
当 期 純 利 益	300	250	19.7	50
<単体>				
売 上 高	2,200	2,010	9.5	190
営 業 利 益	445	363	22.3	82
経 常 利 益	460	372	23.5	88
当 期 純 利 益	290	224	29.0	66
年間配当金	28円	22円		

平成20年度 業績予測:セグメント別売上高(連結)



(単位:億円)

	20年度 予測	19年度 実績	対前年 UP率%	増減
医療用医薬品	1,629	1,551	5.0	78
フロモックス	270	286	△ 5.7	△ 16
クレストール	190	104	82.0	86
フルマリン	110	122	△ 9.7	△ 12
イムネース	105	117	△ 10.2	△ 12
リンデロン等外用	100	100	0.0	0
塩酸バンコマイシン	95	106	△ 10.4	△ 11
クラリチン	95	90	5.5	5
オキシコンチン	82	66	24.0	16
フィニバックス	38	25	50.0	13
アベロックス	25	19	31.6	6
イルベタン	20	-	-	20
ピルフェニドン	5	-	-	5
アダパレン	4	-	-	4
輸出・海外事業	81	63	28.8	18
製造受託	63	58	6.9	5
一般用医薬品	58	56	2.2	2
診断薬	32	33	△ 5.6	△ 1
工業所有権等使用料収入	410	320	28.0	90
クレストール	388	298	30.0	90
不動産賃貸・その他	37	58	△ 36.6	△ 21
合計	2,310	2,142	7.8	168

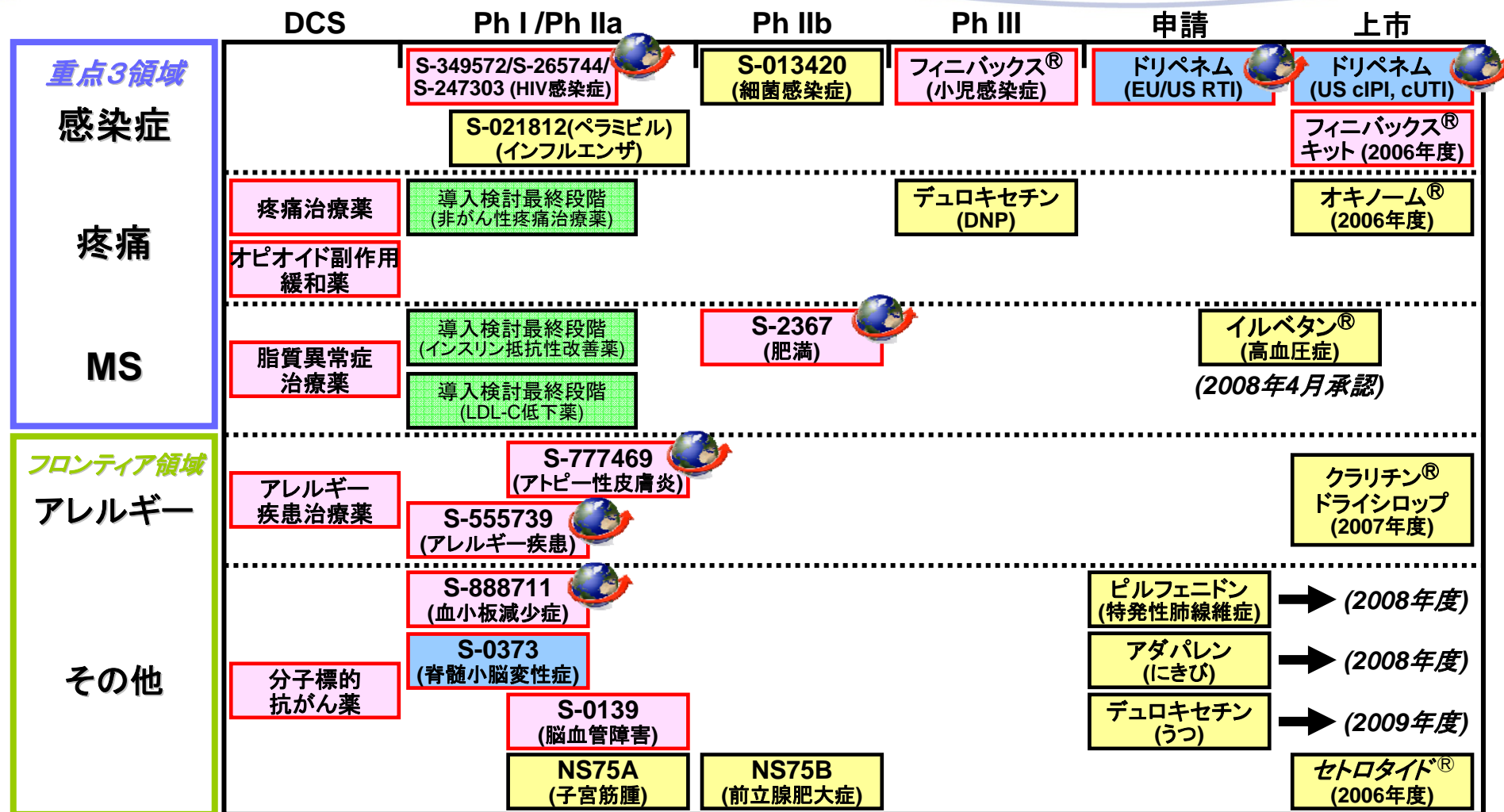
平成20年度 業績予測:営業利益(連結)



(単位:億円)

	20年度 予 測	19年度 実 績	対 前 年 UP率%	増 減
売 上 高	2,310	2,142	7.8	168
(ロイヤルティ)	(410)	(320)	(28.0)	(90)
	29.9 (36.3)	32.0 (37.6)		
売 上 原 価	690	685	0.6	5
売 上 総 利 益	1,620	1,456	11.2	164
	49.4	49.1		
販売費・一般管理費	1,140	1,052	8.3	88
販売・管理費	660	649	1.6	11
研究開発費	480	402	19.1	78
	20.8	18.9		
営 業 利 益	480	403	18.8	77

パイプライン一覧 (2008年5月現在)



自社品
導出品
導入品

 自社創製グローバル開発品

DCS: Drug candidate selection,
 RTI: 呼吸器感染症, cIPI: 複雑性腹腔内感染症, cUTI: 複雑性尿路感染症, DNP: 糖尿病性神経因性疼痛

2008年度の目標達成に向けて(1)



◆ 研究

- 2化合物以上のFTIHおよび4化合物以上の開発候補品の選択
- 創薬シーズ探索の拡充と研究プログラムへの確実な移行
- グローバル創薬を担う研究者の育成

◆ 開発

- グローバル開発品の継続的な創出
- 人材の育成と競争優位性を持つ組織の構築
- 戦略的アライアンスの継続的展開
- 国内営業戦略品の上市に向けた取り組み
(イルベタン, ピルフェニドン, アダパレン, デュロキセチン等)
- 臨床開発品の的確なGo/No Go判断の実施
 - S-2367(米国), NS75B(国内):Ph2b
 - S-021812(国内), S-777469(日米), S-349572(米国):POC実施
 - S-555739(EU), S-888711(国内):POM実施

2008年度の目標達成に向けて(2)



◆ 製造

- 摂津工場新棟でのイルベタン[®], ピルフェニドン等の固形製剤の生産
⇒ 生産拡大および原価低減への対応
- ドリペネム海外輸出の計画的な生産

◆ 営業

- クレストール, イルベタンによる循環・代謝領域での拡大
- フィニバックス, アベロックス, オキシコンチン等、戦略品目の拡大
- 上市予定のアダパレン, ピルフェニドンの確実な立ち上げ

◆ コスト

- 原価率の低減に向けた生産・調達等の取り組みの継続
- 本社機能のスリム化等による一般管理費の低減